

Differentiation between Birt-Hogg-Dube´ Syndrome and Lymphangiomyomatosis: Quantitative analysis of pulmonary cysts on computed tomography of the chest in 66 females

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2011-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飛野, 和則 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001099

順天堂大学 博士 (医学)

氏名 飛野 和則

論文題目 Differentiation between Birt-Hogg-Dube´ Syndrome and Lymphangiomyomatosis: Quantitative analysis of pulmonary cysts on computed tomography of the chest in 66 females

(Birt-Hogg-Dube 症候群とリンパ脈管筋腫症の鑑別診断: 女性 66 例における胸部 CT を用いた肺嚢胞の定量解析)

論文内容の要旨

Birt-Hogg-Dube´ 症候群 (BHDS) とリンパ脈管筋腫症 (LAM) は臨床所見 (多発肺嚢胞, 腎腫瘍, 皮膚過誤腫) が共通しており, 特に若年女性において臨床的な鑑別診断が困難となることがある。本研究の目的は, BHDS と LAM の女性症例を対象に, 胸部 CT を用いて肺嚢胞の定量解析を行いその特徴を明らかにすることと, 両疾患の鑑別診断に有用な独立した因子を検討することである。

方法: BHDS 14 例, LAM 52 例 (全例女性) を対象とし後ろ向きに検討した。CT 画像において, 肺野を「-200 Hounsfield Units (HU) 以下の領域」, 肺嚢胞を「-960 HU 以下のピクセルが 10 以上連続する領域」と定義し, 肺嚢胞の進展度, 数, 大きさ, 真円度, 分布の特徴についてコンピュータソフトを作成し検討した。さらに, これらの結果に臨床的な情報を加え両疾患の判別分析を行い, 鑑別診断に有用な独立因子を検討した。

結果: 肺嚢胞の定量解析結果, この 2 疾患において全ての検討項目で有意差を認めた。判別分析の結果, 以下の 4 項目が鑑別診断に有用な独立した因子であった; 気胸の家族歴 (2 親等以内), 下肺野・縦隔側への嚢胞の分布, 肺機能検査における拡散能の低下, 嚢胞の大きさ。

結語: 肺嚢胞の定量的な特徴はこの 2 疾患で有意に異なった。本研究で用いた手法は他の嚢胞性肺疾患の鑑別診断や病態の検討に有用と考えられる。